

総務委員会

2020 年次 活動報告

要約

委員会の活動	<ol style="list-style-type: none">1. 胎児登録2. 事務局と共同で定款の改訂作業3. 選挙細則の原案作成 改訂中4. 事務局統合についての検討
次年度へ課題	<ol style="list-style-type: none">1. 第 4 回認証医審査、認定2. 細則の整備

胎児登録

第 57 回日本小児循環器学会発表

レベル II 胎児心臓超音波検査 オンライン多施設間全国登録について

日本胎児心臓病学会 総務委員会 1)

長野県立こども病院 循環器小児科 2)、三重大学産婦人科 3)、徳島大学産婦人科 4)、豊中市民病院小児科 5)、大阪市立総合医療センター 小児循環器科 6)、近畿大学小児科 7)

瀧間浄宏 1), 2)、池田智明 1), 3)、武井黄太 1), 2)、加地剛 1), 4)、河津由紀子 1), 5)、川崎有希子 1), 6)、稲村昇 1), 7)

【目的】学会が主体となって行っているレベル II 胎児心臓超音波検査の多施設間オンライン登録を解析、報告する。【対象と方法】2004年10月1日より2019年12月31日に登録されたレベル (II) 胎児心臓超音波検査 70166 件。全 89 施設。うち胎児心臓専門施設は 59 施設。経年変化数、各県の登録数、疾患分類別の検査割合等を調べて解析した。【結果】経年的に登録は増加、2009 年頃まで 1500-2000 件前後だったものが近年は 10000 件に登り (2019 年は 11833 件)、疾患分類では先天性心疾患が 26961 件 38%、正常が 20844 件 35%、不整脈が 3606 件 5%、心外異常 7293 件 10%で経年的には先天性心疾患の割合がやや減少した。各県の登録数は、大都市圏の東京、大阪、神奈川、そして長野、福岡が上位で 10968、8296、5751、3331(神奈川、長野は同数)件であった。先天性心疾患の内訳では、VSD4773 件、SRV1725 件、SLV 363 件、DORV2871 件、HLHS2259 件、AVSD2343 件、TOF2610 件で、四腔断面の異常を示すものが多いのが特徴であった。しかし、dTGA1503 件(5.5%)、Simple CoA996 件、IAA479 件と診断が難しいとされるものでは少なく、TAPVC は先天性心疾患の 334 件(1.2%)であった。経年的に dTGA, CoA の件数は増加、TAPVC の横ばいは変わらない。不整脈については PAC13339 件、完全房室ブロック 397 件等であった。【結語】胎児オンライン登録は認証医制度設立以降、著明な増加している。レベル II 胎児登録の維持を継続するとともに検査の質の向上を目指す必要がある。

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告を提出いたします。

認証医委員会委員長 稲村 昇

認証医委員会年次報告書（令和2年 2020年度）

要約

委員会の検討事項・課題	1. 2020年度認証医合否に関する経過報告 2. 認証医レポート採点基準の明確化 3. レポート提出に関する規約変更
活動の要約	1. レポート再提出を行い1名の不合格 2. 採点にばらつきがあり採点基準を明確にした 3. 推薦者の役割を明確にした。
次年度への課題	

検討課題(1)

検討課題名	1. 2019年度認証医合否に関する経過報告
結果・結論	第3回認証医の採点状況ですが、54名の応募があり48名は2名の審査員の審査により合格となりました。合格者に関しては6月の理事会で承認をいただきました。 次に6名が合格に至りませんでした。 6月の理事会で6名の審査内容を含め審議していただきました。理事会では該当者の再審査を認証医委員会が行うことに決まりました。再審査の方法は提出済のレポートを新たな審査員を選定し再度審査いただき、判定は可、不可、再提出で判定をいただきました。結果ですが、2名は合格、2名が不合格、2名が再提出との判定をいただきました。 その後、2名の再提出のレポートを各2人の審査委員で審査しましたが1名が不合格となりました。
次年度の課題と進め方	今後も同様の合否判定を継続
主担当者	稲村 昇

検討課題(2)

検討課題名	2. 認証医レポート採点基準の明確化
結果・結論	資料1 参照
次年度の課題と進め方	
主担当者	稲村 昇

検討課題(3)

検討課題名	3. レポート提出に関する規約変更
結果・結論	5 枚のレポート全てに推薦者のサインを必要とする
次年度の課題と進め方	
主担当者	稲村 昇

文責：稲村 昇

認証医レポート採点項目

2020年12月14日改定

審査される先生は以下の項目が満たされているかどうかを判定してください。

採点項目

1. 母体情報（年齢、週数、母体合併症など）
2. 胎児情報（胎位、FL、BPDなどによる胎児の大きさの情報、合併症など）

1.2は全て必要ではないが、正常かもしくは正常でないかの情報は必須です

3. 腹部断面、4CV、3VV、3VTVの基本断面の情報が記載されているか

各断面での記載は必須です。

画像は必須ではないが、正常でも正常とわかる記載が必要です。

4. 診断の根拠となった画像が捉えられているか

①添付された画像が適正か

どこをどのように見ている判断がつく記載があるか

画像が明瞭でなくとも補助となるイラストがあり判読できればよい

前後左右が正しいか、画像の解説が正しいか、計測ポイントが適切か

カラードプラー法を使用した場合のカラー速度が適切か

パルスドプラー法を使用した場合サンプルポイントが適切か

②診断を証明できる根拠のある画像か

例えばファロー四徴と診断した画像であれば、大動脈の騎乗と3VVで大血管の関係が必要である。

③病態を解説できる画像か

ファロー四徴であれば、肺血流がどこから供給されているのか、PAと診断したなら動脈管を逆流するドプラ所見もしくはカラードプラ画像が必須です。

5. 心臓機能に関する記載とその解釈が妥当か（心機能評価が記載されたレポートが最低一つは必須です）

心機能に関する内容は全てのレポートに必要ではありませんが、必ず1枚のレポートで心機能に関する記載が必要です。心機能が低下しているなら、どの指標で低下していると判断したのかを記載することが必要です。例えば、僧帽弁閉鎖不全があれば、SFと僧帽弁逆流のdp/dtに関する記載が必要です。

6. 治療方針について記載があるか

分娩に関する方針 出生後の臨床経過 出生後に予定される内科治療や外科治療の内容と行う時期、条件などをクライアントに説明する内容に匹敵するものが必須です。

7. 診断が異なった場合、誤った原因が記載されているか

心エコーの技術によるものだけでなく、妊娠経過で変化したため出生後の診断と異なることもあります。このような原因について考察できているかが重要です。

8. 出生後の診断が記載されているか

9. 出生後の経過が記載されているか

長期的な経過は不要ですが、短期的な経過(初回入院中の経過)に関しては必要です。

10 家族への説明における配慮が記載されているか

遺伝的疾患であれば次子への影響 染色体異常を疑った場合はどこまで必要なことを説明したかなど

以上 10 項目を参考に 1 レポート毎に 1~3 点で採点してください。3 点が満点です。

2 点は合格です。1 点は不合格です。1 点を付けた時は理由を記載してください。

3、4、6、9 は必須項目です。 記載が不十分な場合は不合格になります。残りの項目は

総合的に評価してください。

認証医委員会 委員長 稲村 昇

委員会年次活動報告

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告書を提出いたします。

委員会名： 学術委員会

報告者名： 堀米 仁志

委員会年次報告書（令和2年度）

要約

委員会の検討事項・課題	1. 胎児心エコーガイドライン改訂への協力
活動の要約	1. 上記
次年度への課題	

検討課題（1）

検討課題名	里見賞選考方法の再検討
結果・結論	第26回学術集会は中止のため里見賞選考もなかった。
次年度の課題と進め方	第27回学術集会はwebで演題発表、選考の予定。
主担当者	

検討課題（2）

検討課題名	
結果・結論	
次年度の課題と進め方	
主担当者	

文責： 堀米 仁志

委員会年次活動報告

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告書を提出いたします。

委員会名： 教育委員会

報告者名： 渋谷 和彦

委員会年次報告書（令和2年度 2020年）

要約

委員会の検討事項・課題	<ol style="list-style-type: none">1. 第5回レベルII胎児心エコー講習会のWEB開催2. 第27回学術集会における教育セミナーの開催3. 学会HPに掲載する教育コンテンツの作成
活動の要約	<ol style="list-style-type: none">1. 2020年12月13日に講習会をWEB開催した2. 2021年2月27日に教育セミナーを開催する3. 教育セミナーの動画を教育コンテンツとする
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none">1. 認証医の要件とするレベルII講習会の充実と継続2. 教育セミナーにおける学術集会会長との連携3. 教育コンテンツの作成の継続

検討課題（1）

検討課題名	第5回レベルII胎児心エコー講習会のWEB開催
結果・結論	新型コロナウイルスの流行にともない、2020年12月13日に受講証明書を発行する講習会を初めてWEB開催として166名が参加した。また、12月17日から23日までアーカイブ配信を行い135名が参加し合計301名が参加する。新型コロナウイルスが収束した後もオンライン形式（またはハイブリッド形式）の開催を要望する声が多い（アンケートの結果）。
次年度の課題と進め方	初めてのオンライン講習会は大きなトラブルなく終了したが、受講者の参加認証方法は改善の余地があり検討する。
主担当者	教育委員会全メンバー

検討課題（2）

検討課題名	第27回学術集会における教育セミナーの開催
結果・結論	新型コロナウイルスの流行によりハイブリッド形式となる初めての学術集会だが、2日目の2021年2月27日に会長から要望されたテーマである「Ebstein病」について教育セミナー（全4講義）を開催する。
次年度の課題と進め方	毎回テーマを決めて基礎から応用まで学べる教育セミナーを次年度の学術集会会長と相談しながら開催する。
主担当者	教育委員会の全メンバー

検討課題（3）

検討課題名	学会HPに掲載する教育コンテンツの作成
結果・結論	上記の検討課題（2）に記した教育セミナーにおける「Ebstein病」についての各講義を動画録画して教育コンテンツとしてHP上にUPする。
次年度の課題と進め方	次年度における教育セミナーに関してもHP上の教育コンテンツとして継続して作成する。
主担当者	教育委員会の全メンバー（HPへのUPは広報委員会）

文責： 渋谷 和彦

委員会年次活動報告

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告書を提出いたします。

胎児治療委員会 委員長 左合 治彦

胎児治療委員会年次報告書（令和2年度）

要約

委員会の検討事項・課題	1. 重症大動脈弁狭窄症の胎児治療 2. 胎児頻脈性不整脈の胎児治療
活動の要約	1. 重症大動脈弁狭窄症の胎児治療 2019年4月より早期安全性試験を開始し、1例適応症例があったが施行できず、症例登録中である。 2. 胎児頻脈性不整脈の胎児治療 胎児治療例の長期予後の調査を継続。 抗不整脈薬の妊娠禁忌外しへの働きかけ
次年度への課題	1. 症例登録を行い、胎児治療を実施する 2. 長期予後の調査と保険収載への働きかけ

検討課題（1）

検討課題名	重症大動脈弁狭窄症の胎児治療
結果・結論	胎児重症大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療の登録開始から4例の受診と1例の画像コンサルテーションがあった。1例は受診時すでに適応外であった。適応基準を満たした3例で治療の説明を行い、そのうち1例で同意を得た。その対象症例は妊娠31週4日から3日間入院し、胎児治療を施行する予定としたが、胎向が胎児治療に適した位置にならず、本治療の適応期間である妊娠31週6日を過ぎたため、試験中止となった。そのため未だ実施症例はない。
次年度の課題と進め方	1例症例登録を行う、胎児治療について広報する
主担当者	小野博、小澤克典、安河内聡

検討課題（2）

検討課題名	胎児頻脈性不整脈の胎児治療
結果・結論	胎児治療を受けた47例の長期予後を成育開発研究

	費で調査中。41例からデータを回収した。 抗不整脈薬の妊娠禁忌外しに関しては日本産科婦人科学会より要望書を提出いただいた。
次年度の課題と進め方	1. 長期予後の検討 2. 治療薬の保険収載について
主担当者	三好剛一、前野泰樹

文責： 左合 治彦

委員会年次活動報告

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告書を提出いたします。

委員会名： 広報委員会

報告者名： 松井 彦郎

広報・Registration 委員会 年次報告書（令和2年度）

要約

委員会の検討事項・課題	1. ニュースレターの刊行 2. 法人化に伴う学会ホームページのリニューアル提案
活動の要約	1. ニュースレターの企画・素材収集・発行 2. 法人化にあわせてホームページの整備
次年度への課題	学会誌発行の検討 ホームページリニュアル

検討課題（1）

検討課題名	ニュースレターの刊行
結果・結論	半期に1回のニュースレターを発行した。
次年度の課題と進め方	発行業務の事務局移行 学会誌発行の検討
主担当者	金基成

検討課題（2）

検討課題名	法人化に伴う学会ホームページのリニューアル提案
結果・結論	法人化に伴う、ホームページの整備・スマホ対応変更の具体案の作成
次年度の課題と進め方	ホームページのリニューアル実行 持続した内容検討
主担当者	松井彦郎・金基成・三好剛

文責： 松井 彦郎

委員会年次活動報告

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告書を提出いたします。

委員会名： 家族支援委員会

報告者名： 河津 由起子

委員会年次報告書（令和2年度）

要約

委員会の検討事項・課題	1. 胎児心臓診断における家族支援活動についての啓蒙および情報共有
活動の要約	1. 日本胎児心臓病学会学術集会における家族支援に関するセッションの企画・コーディネート 2. 自施設での胎児心臓診断における家族支援についての講義や活動 3. 他施設での胎児心臓診断における家族支援についての講義や活動 4. 学会ホームページでの家族支援の啓蒙活動の検討 5. 日本小児循環器学会教育セミナーでの講義
次年度への課題	委員会の委員所属施設および全国他施設への家族支援活動の啓蒙

検討課題（1）

検討課題名	胎児心臓診断における家族支援活動についての啓蒙および情報共有 （日本胎児心臓病学会学術集会における家族支援に関するセッションの企画）
結果・結論	第26回日本胎児心臓病学会での家族支援セッションとして企画（石戸担当）としていた次の内容を、第27回日本胎児心臓病学会で行う方向で準備中 1）招待講演「バッドニュースの伝え方」埼玉医大総合医療センター診療心理士別所晶子さん 2）セッション：厳しい症例にどう説明するか 3）一般演題
次年度の課題と進め方	家族支援委員会として学会におけるセッションを継続
主担当者	持回り委員：石戸委員、次回は石井徹子委員（高木委員協力）

検討課題（2）

検討課題名	胎児心臓診断における家族支援活動についての啓蒙および情報共有 （自施設での胎児心臓病診断における家族支援についての講義や活動）
結果・結論	・Covid-19 感染流行により、どの施設も胎児エコーは妊婦のみ。説明は、病院によっては説明に家族同席ができず、タブレット・ZOOM等を利用しての説明を余儀なくされている ・NICU 訪問・病棟見学ができなくなった施設では、病棟案内ビデオが作成された

	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期メンタルヘルス外来の設置 ・臨床心理士の介入の機会が増えている ・遺伝学的検索の機会も増加の傾向にあり、遺伝カウンセラーの介入も増えてきた ・小児循環器医師の説明に、小児科側看護師の同席を継続や新たな開始 ・胎児診断時より、MSW も含めた多職種サポート体制の構築
次年度の課題と進め方	引き続き、自施設での胎児心臓診断における家族支援体制の構築・教育活動に努める
主担当者	全委員

検討課題（3）

検討課題名	胎児心臓診断における家族支援活動についての啓蒙および情報共有 (他施設での胎児心臓病診断における家族支援についての講義や活動)
結果・結論	<ul style="list-style-type: none"> ・病診連携等を通して、胎児心エコーの相談・情報共有が可能となった（分娩先、症例相談） ・他施設の倫理的問題を抱えた症例の相談・カンファレンス ・NPO への連携（胎児ホットライン）
次年度の課題と進め方	引き続き、他施設での胎児心臓病診断における家族支援の相談・教育活動に努める
主担当者	全委員

検討課題（4）

検討課題名	胎児心臓診断における家族支援活動についての啓蒙および情報共有 (学会ホームページでの家族支援の啓蒙活動)
結果・結論	<ul style="list-style-type: none"> ・学会ホームページでの各病院のパンフレット共有等に関する検討 ・学会ホームページでの胎児支援に関する情報ページ作成について検討中（権守・笹川・吉田）
次年度の課題と進め方	ホームページでの掲載を目指す
主担当者	権守・笹川・吉田

検討課題（5）

検討課題名	胎児心臓診断における家族支援活動についての啓蒙および情報共有 (日本小児循環器学会 教育セミナーでの講義)
結果・結論	<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児循環器学会第 17 回教育セミナー II 胎児および新生児特有の問題「胎児又は出生直後に心疾患を診断された家族へのカウンセリング」講師
次年度の課題と進め方	今後もセミナーや講習会での講義を継続
主担当者	河津委員長、他

文責： 権守礼美

委員会年次活動報告

日本胎児心臓病学会理事長殿

下記の通り委員会年次活動報告書を提出いたします。

委員会名： ガイドライン改定員会
委員長 稲村 昇

委員会年次報告書（令和2年度）

要約

ガイドライン改定版は令和元年12月にCQが完成し終了した。

令和2年度の活動は以下のとおりです。

令和2年1月31日 ガイドライン改定版完成

令和2年2月1日 日本小児循環器学会に提出

令和2年5月1日 外部評価委員に提出

令和2年12月4日 外部評価委員から返事 修正して返答する

令和2年12月17日 日本小児循環器学会に最終版提出

文責：稲村 昇